

「^{しんこう}信仰を持っていますか？」

と日本人に質問すると、多くの方は「無宗教です。」と答えるそうです。

本当に日本人は無宗教なのでしょうか？

「お守りをお持ちですか？」

そう聞くと、きっと多くの方が、「持っている」と答えるでしょう。

十二月三十一日の大晦日^{おおみそか}には、近くのお寺で除夜の鐘^{じよや かね}をつき、過ぎ去った一年を振り返り、そして新年への思いを新たにされ、年が明けると初詣^{はつもうで}に行き、この一年の自分自身、または家族の無病息災や幸せを祈ったことでしょう。

さらに初詣以外でも、受験生^{やくだし}や厄年^{ごきとう}の方などは、御祈禱^{ごきとう}を受けお札^{ふだ}をいただきます。また車を購入すると交通安全の御祈禱^{ごきとう}を受ける方もいらっしゃいます。

こうお話すると、日本人は、無宗教どころか、とても信仰深いと思いませんか。

きっと私たちの日常生活の営みに自然と信仰が溶け込んでいるが故に、あらたまっ
て問われると「無宗教」などと答えてしまうのかもしれませんが。

お守りも、初詣も、御祈禱も、私たちの「祈り」が形になったものです。

お釈迦さまの説かれた^{しよぎようむじよう}「諸行無常^{しよほうむが} 諸法無我」という言葉が示す通り、この世の中は、私たちの思い通りにならないものです。そんな世の中だからこそ、私たちは祈るのではないのでしょうか。

お釈迦さまも祈りました。

「生きとし生けるもののうえに、^{さいわい}幸あれ、^{あんらく}平和あれ、安楽あれ」

『スッタニパータ』という最も古いお経の言葉です。

お釈迦さまの祈りは、私たちの祈りとは違い、自分自身に対する祈りではなく、私
たちを含む生きとし生けるものすべてに対しての祈りでした。

お釈迦さまは、^{えんぎ}縁起の法を説かれました。それは、この世の中のすべては、^{えん}縁によ
ってつながり成り立っているということです。

私たちの祈りも、自分自身や家族の事を思うと同時に、少しでも世の中に対する祈りを添えることが、お釈迦さまの祈りへと通じる大切な事なのではないでしょうか。

「生きとし生けるもののうえに、幸あれ、平和あれ、安楽あれ」

- 終 -